

令和6年5月1日発行 第2号

## 学校教育目標「認めあう」

●志 抱いて 学びあい ●豊かな心で 思いあい ●元気にスポーツ 鍛えあい



# 二中だより

松伏町立松伏第二中学校

〒343-0115 北葛飾郡松伏町上赤岩 711

<http://matsubushi.ed.jp/matu2tyu/>

TEL 992-0051

発行責任者 校長 星野 健一



## いざ、修学旅行へ！



校長 星野 健一

新緑の季節が訪れ、心地よい風が吹き抜ける5月です。各学年の生徒たちもそれぞれ学年が上がり、やる気に満ちた顔つきがたくさんあふれているようです。新たな気持ちで、様々な学びの機会にチャレンジしていけるよう進めていきますのでよろしく願いいたします。

ところで、今月はGWの連休を終えると、中学校生活の中で大きな行事の一つ、3年生の修学旅行が控えています。修学旅行は、教育課程の基準として定められている学習指導要領に、教科などと並んで位置づけられている特別活動であり、そのうちの学校行事「旅行・集団宿泊の行事」として実施される教育活動です。その活動では「探究的な学習」として、生徒がさまざまな体験的な活動をしていき、課題を発見したり、課題解決に向けての情報を収集したりします。生徒たちも一人一人が情報をまとめて掲示により発信したり、班でのコースづくりを検討したりしながら当日をワクワク待っていることと思います。



【3年生個人個人の修学旅行事前調べ】

その修学旅行ですが、いつ頃から始まったのかと調べてみると、1886年2月、現在の筑波大学の前身、東京師範学校が千葉の銚子方面に11泊12日という「長途遠足」が修学旅行の始まりとされています。もちろん全行程徒歩です。このころの日本は「富国強兵」の時代でしたので、当時の学校で行われていたものは、軍事的な性格をもっていたようです。それでも途中で鉱物や貝類の観察・採集、文化財や遺跡の見学といった「学び」の要素を取り入れて実施しているので、修学旅行の始まりとする所以となっているわけです。

そのような歴史のある修学旅行ですが、去年は京都・奈良方面へ何とか無事に行くことができました。そして、非日常となっていたコロナ禍が過ぎた今、歴史や文化の学習とともに先生も生徒たちと同じ時間や空間を共有できる修学旅行は、改めてコミュニケーションの場としてもとても貴重な学習の機会だと感じています。

さて、生徒の皆さんへ。先月から続く夏日も、更に今月も予想されます。やっとな新学期に慣れてきた学校生活です。疲れや暑さからの体力消耗のために学校への意欲が薄まらないようにしっかりと食を取り、しっかりと睡眠を取って、生活のリズムを万全にしていきましょう。ぜひ、御家庭での御協力もよろしく願いいたします。